

2024年1月5日

2024～2025年度代議員候補者について

公益社団法人日本分析化学会
役員等候補者選考委員会

日本分析化学会の代議員は、総会を構成し、定款に定められた事項（理事および監事の選任または解任、貸借対照表及び損益計算書の承認等）について審議、決定します。代議員候補者の選考は、定款第14条に基づき、日本分析化学会の正会員（名誉会員、永年会員並びにシニア会員は正会員に含まれます）、教育会員及び維持会員の代表者の投票によりこれらを決定することになっております。別紙記載の2024～2025年度代議員候補者は、公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則により各支部長及び正会員、教育会員並びに維持会員から推薦された候補者について役員等候補者選考委員会の審議を経て選定されたものです。

つきましては、日本分析化学会正会員（含名誉会員、永年会員、シニア会員）、教育会員、維持会員代表者各位には、別紙投票用紙により漏れなく投票をお願いします。候補者全員に賛成の場合は、そのままお送りいただければ有効投票となります。不適任と思われる候補者がいる場合はその氏名を消してください。

投票は無記名投票です。一つの封筒に1投票を入れ、封筒には「投票在中」と朱記し、勤務先（又は現住所）、氏名または維持会員代表者名を明記のうえ下記宛にお送りください。

投票締切日 1月31日（消印有効）

投票送付先 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号
(公社)日本分析化学会 役員等候補者選考委員会

代議員選考に関する規程抜粋

定款

第14条 学会の社員は、正会員、教育会員及び維持会員の中から選出された90名以上130名以内の代議員をもって「一般法人法」の社員とする。

2 代議員を選出するため、正会員、教育会員及び維持会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な細則は理事会において別に定める。

3 代議員は、正会員、教育会員及び維持会員の中から選ばれることを要する。正会員、教育会員及び維持会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。

代議員選挙規則

(選挙権)

第2条 選挙権は、選挙が行われる年度の1月1日現在における正会員、教育会員及び維持会員が、これを有する。

(代議員の選出)

第3条 代議員は、学会の正会員、教育会員及び維持会員の全有権者による投票により選出する。

2 別に定める役員等候補者選考委員会（以下選考委員会と略記する）において、選挙が行なわれる年度の11月30日までに代議員候補者を募り、翌年1月発行の機関誌により候補者を会員に通知し、2月の理事会以前に選挙を実施する。

3 選考委員会は、再選挙にあつては、これを行うべき事由を生じてから3か月以内に選挙が終了するよう選挙を実施する。

(代議員選挙の管理)

第4条 代議員選挙は、選考委員会の管理のもとで行う。

(代議員支部推薦候補者の選考)

第5条 支部は、支部所属の正会員、教育会員及び維持会員の中から候補者を推薦できるものとする。

お知らせ

- 2 支部は前項の推薦をするにあたっては、広く支部所属の正会員、教育会員及び維持会員に推薦希望の有無を募らなければならない。
- 3 支部長が、会長に推薦する代議員候補者中には、当年度の役員及び支部長であって退任する者及び次期支部長を含むことができる。

(代議員支部推薦以外の立候補者の届け出)

第6条 正会員、教育会員及び維持会員のうち、代議員に立候補しようとする者は、自薦または正会員、教育会員、維持会員の推薦により、選考委員会に、その定める締切日までに届け出る。

(代議員選挙の方法)

- 第7条 各支部の推薦候補者数は、当該支部に所属する年度初めの正会員、教育会員及び維持会員の数を勘案の上、選挙の都度理事会が決定し、選考委員会に通知する。
- 2 選考委員会は、正会員、教育会員及び維持会員に対して機関誌による広告により代議員選挙を案内し、立候補者を募集する。選考委員会は、各支部に代議員選挙を案内する。
 - 3 選考委員会は支部推薦候補者を機関誌の広告により各支部の正会員、教育会員及び維持会員に周知させ、支部推薦以外の立候補者を同様の方法により全正会員、教育会員及び維持会員に周知させる。
 - 4 支部推薦によって選出された代議員が、その選出された支部から別の支部に所属を変更した場合でも、選出された支部の定数に含まれるものとする。

(代議員選挙の投票)

第8条 選挙は有権者の郵便投票によって行う。

- 2 選挙期日までの消印のある場合で開票前に到着したものは有効とする。
 - 3 投票に際して、投票者本人が有権者であるかどうかを選考委員会が確認するために封筒外側に氏名を記入するものとする。
 - 4 投票に際して投票者を確認するためにとられた措置による個人情報投票の有効性を確認する以外にはこれを用いてはならない。
-

2024 年度有功賞候補者推薦について

日本分析化学会は、毎年、多年にわたって分析の実務に従事した方々や、分析に欠くべからざる機械、器具、試薬などの製造等の実務に従事した方々を表彰して「有功賞」を贈呈してまいりました。

本年も下記の有功賞規程により 2024 年度有功賞候補者を募集します。各関係機関におかれましては、適任者がおられましたら 1 名（維持会員の場合は 1 口に付き 1 名）を推薦くださいますようお願い申し上げます。

『有功賞規程』

第 1 条 本会に有功賞を設け、多年にわたり分析の実務に従事し、又は分析に欠くべからざる機械、器具並びに試薬などの製造等の実務に従事して功労のあった者に、これを贈呈する。

第 2 条 有功賞は、賞記並びに賞牌とし、年会において贈呈する。

第 3 条 会長は、毎年会誌「ぶんせき」1 号に有功賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第 4 条 有功賞候補者の推薦者は、維持会員代表者、公益会員代表者及び支部長とする。

(1) 維持会員代表者及び公益会員代表者は、その機関に所属する者を推薦することができる。

(2) 支部長は、維持会員及び公益会員に所属しない会員歴 5 年以上の正会員を推薦することができる。

第 5 条 前条によって推薦される者は、受賞する年の 1 月 1 日現在において満 50 歳以上であり、かつ休職期間を除いて満 25 年以上第 1 条の実務に従事している者とする。

第 6 条 候補者の推薦に際しては、次の (1)～(3) に規定する書類正、副各 1 通を 4 月 30 日までに本会に提出するものとする。

(1) 推薦書 (2) 推薦理由書 (3) 被推薦者履歴書 (いずれも本会所定の用紙に記入すること)

第 7 条 有功賞候補者の選考は、有功賞審査委員会において行う。

審査委員は、理事会が本会会員中より 11 名を選考し、会長がこれを委嘱する。

委員長は、委員の互選による。

(以下省略)

☆

☆

1) 2024 年度有功賞授賞式は、9 月 12 日 (木) 第 73 年会 (名古屋) において行う予定です。

2) 被推薦者の学歴制限はありませんが、被推薦者は本年 1 月 1 日現在において第 1 条の実務に従事されていることが必要ですので、ご注意ください (上記第 5 条)。

3) 有功賞候補者推薦書の維持会員代表者氏名は、本会に登録されている代表者氏名を記入してください (代表者氏名が異なる場合は返却します)。

4) 推薦理由書の所属部課係名、実務内容並びに期間は、できるだけ詳細に記入してください。

5) 推薦書類 (推薦書、被推薦者履歴書、推薦理由書: 本会所定の用紙) は、正 1 通、副 1 通 (コピーでも可) を下記期限までに提出してください。

6) 推薦期限: 4 月 30 日 (郵送の場合は、当日の消印のあるものまで受理します)

7) 推薦書類提出先: 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号
公益社団法人日本分析化学会有功賞係 (メールでの送信は shomu@jsac.or.jp)

8) 所定の書類を入用の場合は、<https://www.jsac.jp/applications/> からダウンロードしてください。

第41回分析化学における不確かさ 研修プログラム

—受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるように演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・「楽しく簡単に解かり易く」不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする。

ことを特徴としています。講師が一方的に説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式を進めていきます。

今回から、ハイブリッド型で開催しますので、オンライン参加も可能となりました。遠方のお客様もお気軽にご参加ください。

※ハイブリッド型の詳細は、日本電気計器検定所のホームページをご覧ください。

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html

期日 2024年3月7日(木)・8日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町」駅芝浦口(東口)から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田」駅A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者

- ・不確かさの計算方法を初歩から学びたい方
- ・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられる様々な確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因

を考察するグループ演習)

11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)

第2日(9.30~16.30)

12. 初日のおさらい
13. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)
14. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
15. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
16. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
17. 演習：間違い探し
18. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
19. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさをを用いている例と技能試験の紹介)
20. まとめ
21. 確認テスト

募集定員 24名(定員に達し次第、締め切ります)

参加方法 会場参加またはオンライン参加の何れかを選択できます。

申込締切 2024年2月29日(木)

受講料 会員64,900円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外75,900円

※テキスト代、消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことを受講証明書を主催団体から発行します。

合格証明書の発行 確認テスト合格者には、日本電気計器検定所から合格証明書を発行します。

申込方法 日本電気計器検定所のホームページ

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力のうえ、E-mailに添付してお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。① JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③ 定期刊行物の発送、購読期限及び会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合せ 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所JEMIC計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail：kosyukai-ky@jemic.go.jp〕

第391回液体クロマトグラフィー 研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー (LC) 研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会, (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

機能性材料の分析では、より複雑な組成を含む合成高分子やそれに含まれる添加剤の解析等に LC は欠かせない技術となっております。

このような材料分析においては、さまざまな検出器を駆使し、定性から定量まで幅広く対応することが求められております。

今回は、本分野に関連する方々にお集まりいただき、材料分析における検出器の選定のポイントや活用方法、実際の分析事例についてご講演いただきます。

期日 2024年1月24日(水) 13.00~16.40

会場 栗田工業(株)/Kurita Innovation Hub 講堂 A [東京都昭島市拝島町 3993-15, 交通: JR「昭島」駅より徒歩7分]

https://www.kurita.co.jp/aboutus/pdf/KIH_accessmap_jp.pdf

講演主題 材料分析における検出器の有効活用

講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13.00~13.10)

(出光興産(株) 村上祐子 (LC 分析士二段)

1. 有機材料分析における検出器選択のポイント

(13.10~13.40)

(日本ウォーターズ(株) 島崎裕紀

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士二段)

2. 添加剤/界面活性剤分析における検出器の使い分け

(13.40~14.10)

(アジレント・テクノロジー(株) 飯室龍之介

(LC 分析士初段)

3. 高分子材料/製品分析における HPLC の活用事例

(14.10~14.40)

(東ソー(株) 伊藤誠治

(LC 分析士五段, LC/MS 分析士二段)

休憩 (14.40~15.10)

休憩時間中に講堂 A に隣接するコーナーで、模型や AR、ジオラマを通じてクリタグループの水と環境に関する基盤・適用技術及びソリューションを紹介する展示の見学が可能です。

4. 材料分析における高分解能質量分析計と KMD 解析の最新動向 (15.10~15.40)

(日本電子(株) 佐藤貴弥

(LC/MS 分析士初段)

5. PFAS 分析条件の検討事例 (15.40~16.10)

(栗田工業(株) 榎本幹司

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士三段)

6. 総括「材料分析における検出器の有効活用」

(16.10~16.40)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC マイスター, LC/MS マイスター)

情報交換会 (17.00~19.00) 申込者のみ

参加費 ① LC 研究懇談会・個人会員, 学生: 1,000 円, ② LC 研究懇談会・団体会員: 2,000 円, ③ 後援学会・個人会員: 3,000 円, ④ 後援学会・団体会員: 4,000 円, ⑤ その他: 5,000 円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します(会費 5,000 円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、ご了承ください。

申込締切日 1月17日(水) (入金締切時刻: 15時まで)

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC 研究懇談会・個人会員、協賛学会・個人会員、その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。

2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第391回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。

3. 申込受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、一旦納入された参加費は、返金いたしません。

4. 参加費の納入が確認できた方には、2024年1月18日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。なお、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込

(→例会ごとに振り込んでください)

2. 複数参加者の参加費の同時振込

(→参加者ごとに振り込んでください)

3. 年会費や他の費用との合算振込

(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/n9FjQeb3qwXGP8E48> (学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通) 1754341, 口座名義: シヤ)ニホンブンセキカガクカイ(公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会)

問合先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 出光興産(株) 村上祐子

[E-mail: yuko.murakami.7750@idemitsu.com]

2024年度液体クロマトグラフィー (LC) 分析士二段 認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですのでお知らせいたします。各会場へのお問い合わせは、ご遠慮ください。

期日 2024年5月30日(木) 14時~16時

会場

①東京会場: (株)島津製作所東京支社 [東京都千代田区神田錦町1-3, 交通: 都営新宿線「小川町」駅, 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅, 東京メトロ丸の内線「淡路町」駅のB7出口より徒歩6分, 東京メトロ銀座線「神田」駅より徒歩10分, JR「神田」駅西口より徒歩10分。]

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html>

②京都会場: (株)島津製作所本社研修センター [京都府京都市中京区西ノ京桑原町1, 交通: (地下鉄)京都市営地下鉄烏丸線「京都」駅より国際会館方面に乗車、「烏丸御池」駅にて下車し、京都市営地下鉄東西線「太秦天神川」方面に乗り換え、「西大路御池」駅下車, 4番出口より南へ徒歩3分。(市バス)京都駅烏丸中央口北側のバス乗り場より「205系統: 西ノ京町・金閣寺道ゆき」または「26系統: 宇多野・

お知らせ

山越ゆき」に乗車。「西大路三条」で下車後、三条通りを西へ徒歩3分(北側)京都駅からの所要時間約35分。

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/sanjo.html>

二段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「手順書、作業マニュアル、規格を見れば、自分で計画して業務を遂行できるレベル。当該分析・測定技術に関連する物理、化学、生物、電気、機械等の基礎知識を有し、装置等の日常点検、保守等も行える。」と規程されます。液体クロマトグラフィー分析士においては「HPLC装置とそれぞれのパーツの内容や原理の理解が十分にある。HPLCを用いた試験について、正確な操作を行うことができる。簡単な部品の交換が自分でできる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学の各分野並びに化学・分析化学一般に関する知識を問う内容が約40%含まれます。

受験料 6,600円(合格者は登録料3,300円を別途申し受けます)。請求書の発行はいたしません。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた液体クロマトグラフィー分析士初段試験に合格し、登録された方に限りません。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ(<https://forms.gle/k8mKrS2o11vF2Wit9>)にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 5月20日(月)15時。会場に定員制限がありますので、入金順に受験番号を発行します。

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金0802349、口座名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会(シヤ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー)。一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証専門部会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

14日(金)まで)、5,000円(6月15日(土)以降)、②非会員：6,000円、③学生：2,000円

申込・問合せ先 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学工学部 リムリーワ

[電話：058-293-2815、E-mail: lim.lee.wah.u7@f.gifu-u.ac.jp]

詳細は、日本分析化学会有機微量分析研究懇談会のHP(<https://www.jsac.or.jp/~orgmicro/>)にも掲載予定です。

有機微量分析研究懇談会

創立70周年記念大会シンポジウム

第91回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

第125回計測自動制御学会力学量計測部会

第41回合同シンポジウム

主催 (公社)日本分析化学会有機微量分析研究懇談会

共催 (公社)計測自動制御学会力学量計測部会

協賛 (公社)日本分析化学会、(公社)日本化学会、(公社)日本薬学会(申請中)

期日 2024年7月11日(木)~13日(土)

会場 岐阜大学講堂・工学部他〔岐阜市柳戸1-1〕

内容 特別講演・一般講演(口頭発表、ポスター発表)

発表申込締切 2024年3月15日(金)必着

発表申込方法 ①講演形式(口頭・ポスター発表)、②申込区分(一般 or 若手(30歳以下))、③申込者氏名、④会員番号(有機微量分析研究懇談会会員の場合)、⑤郵便番号・連絡先住所(所在地)、⑥電話番号、⑦FAX番号、⑧メールアドレス、⑨所属機関(和文名および英文名)、⑩講演題目(和文題目および英文題目)、⑪発表者氏名(講演者の前に○印)、⑫発表者英文氏名、⑬講演の概要(和文100字程度)を、封書またはE-mail(件名：合同シンポジウム講演申込)にて下記の申込先宛にお送りください。

講演要旨原稿締切 2024年5月10日(金)必着

事前参加登録締切 2024年6月14日(金)必着

参加登録費 ①主催・共催及び協賛学会会員：4,000円(6月

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

腐食防食部門委員会第 352 回例会

主催 (公社)日本材料学会
期日 2024年1月23日(火)
会場 大阪府教育会館たかつガーデン2階コスモス
ホームページ <http://www.jsms.jp>
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町 1-101
(公社)日本材料学会 [E-mail: jimu@office.jsms.jp]

第 289 回ゴム技術シンポジウム

「基礎から応用技術で見るゴムのトライボロジー V」

主催 (一社)日本ゴム協会トライボロジー研究分科会
期日 2024年1月17日(水)
会場 東部ビル5階とオンライン併用によるハイブリッド
ホームページ
https://www.srij.or.jp/newsite/schedule/view_detail.php?gno=6364&keepThis=true&TB_iframe=true&height=550&width=680
連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル1階 (一社)日本ゴム協会 第289回ゴム技術シンポジウム係 [電話: 03-3401-2957, E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp]

23-2 高分子表面研究会

マテリアルズインフォマティクスと
計算化学を用いた表面・界面設計

主催 (公社)高分子学会高分子表面研究会
期日 2024年1月26日(金)
会場 東京理科大学森戸記念館第1フォーラム
ホームページ
<https://member.spsj.or.jp/event/index.php?id=545>
連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船 3-10-9 新富町ビル 6F (公社)高分子学会事業課 23-2 高分子表面研究会係 [電話: 03-5540-3771, E-mail: jigyo@spsj.or.jp]

プラズマ分光分析研究会第 121 回講演会

材料開発や生体・環境動態解析に
資するプラズマ分光分析

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2024年3月13日(水)
会場 東京電機大学東京千住キャンパスおよび Zoom による
オンライン
ホームページ <https://plasma240322.peatix.com/>
連絡先 192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 東京薬科大学生命科学部分子生命科学科生命分析化学研究室内 プラズマ分光分析研究会 事務局 大関杏子
[電話: 042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp]

みる・はかる・未来につなぐ科学機器展 東海サイエンスパーク 2024

主催 東海科学機器協会, (一社)愛知県計量連合会, (株)産業
経済新聞社
期日 2024年6月13日(木)~15日(土)
会場 名古屋国際会議場
ホームページ <https://miruhakaru.jp/>
連絡先 〒100-8125 東京都千代田区大手町 1-7-2 産経新
聞社事業本部コンベンション事業部
[電話: 03-3273-6180, E-mail: miruhakaru@sankei.co.jp]

第 9 回実用表面分析国際シンポジウム 9th International Symposium on Practical Surface Analysis (PSA-24)

主催 (一社)表面分析研究会
期日 2024年11月17日(日)~22日(金)
会場 Paradise Hotel Busan (パラダイスホテル釜山)
ホームページ
<https://surfaceanalysis.kr/PSA/PSA24/>
連絡先 PSA-24 実行委員会事務局 高橋和裕 (株)島津製作所
[E-mail: secretary-psa24@sasj.jp]

「分析化学」年間特集“分”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し、節目の15年目に当たる2024年は「分」をテーマとすることと致しました。

本特集では「分」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第73巻(2024年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「分」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の10・11号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「分」に関連した分析化学的な基礎・応用研究に関する論文。例を以下に示します。

- 1) 環境水や体液といった液体試料を分析するための前処理分離に関する研究、
- 2) さまざまな物質中から測定対象物質を分離抽出する技術に関する研究、
- 3) 環境からの有害物質の除去・有用物質の回収に関する研究、
- 4) クロマトグラフィーに関する基礎・応用研究、
- 5) 分離のシミュレーションを活用した分析化学的研究、
- 6) 生体サンプル中のバイオマーカー検出に関する研究。

特集論文原稿締切: 2024年4月26日(金) (第3期)

「分析化学」特集

“流れ分析—40年の歩みとこれから”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、フローインジェクション分析研究懇談会と共同で「流れ分析—40年の歩みとこれから」と題した特集を企画しました。フローインジェクション分析研究懇談会は、1984年に設立され、2024年に40周年を迎えます。この間、様々な流れ分析のプラットフォームが開発され、発展してきました。また、JISにおいて規格化され、臨床、産業、環境をはじめとする様々な分野で活用されるようになりました。本特集号では、流れ分析のこれまでの発展に関する総合論文、流れ分析法の未来を切り開く新しいプラットフォームの開発、新しい検出法や流れの特性を活かした検出反応、溶液のハンドリングを自動化し様々な測定器への直接導入を可能とした前処理法などの分析法をはじめ、流れ分析の迅速かつ高感度である特徴を活かしたアプリケーションの展開などについて報文などの投稿をお待ちしております。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2024年2月20日（火）

特集論文原稿締切：2024年4月12日（金）

初めて書く論文は母語の日本語で！

“第23回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2024年（第73巻）に第23回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっ

ておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。